

平成29年度福岡県公立古賀竟成館高等学校自己評価表

				評価(3月)
学校運営方針		志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心もち、地域社会の有意な人材として活躍できる逞しい生徒を育成する。そのために、校訓「自主・友愛・練磨」の精神を培い、生徒の「志や夢」の実現のために、知・徳・体の調和のとれた教育実践のもと、「生きる力」の育成を目指すとともに、本校と地域の絆を高め、「地域に根ざし地域に愛される学校づくり」を推進する。更に「竟成館五箇条教育」の定着を図り、様々な課題解決を図り、ファーストチョイスされる学校づくりを推進する。		
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標	
生徒の進路実現に向けたキャリア教育や授業改善に努めた結果が徐々に表れてきている。PTAや同窓会、後援会の支援もあり教育環境の整備も図られ、落ち着いた雰囲気の中充実した教育活動を行うことができた。部活動においてはチアリーディング部と簿記部が全国大会出場を果たした。また、学校行事や地域への行事参加、ボランティア活動も積極的に行った。教諭全員による担当中学校への訪問・広報活動、5ヶ所の地域説明会、体験入学等を行い、平成29年度入試では、推薦入試で定員の3.26倍の、一般入試では850名を超える受検生を獲得し、入学者の専願率も58%を超えた。今後は、校名変更後十年に向けてより専願率を高めるために、広報活動を更に推進するとともに、生徒の進路実現に向けた取組をより充実させなければならない。そのためにも「率先垂範」、「師弟同行」のもと、竟成館五箇条教育による生徒の人間力向上と学力向上に努めなければならない。		人間力の向上(健全で健康な人間になるために)	「竟成館五箇条教育」の定着を図り、基本的な生活習慣及び「生きる力」が身についた生徒を育成する	
			道徳教育・人権教育を推進し、規範意識が身についた生徒を育成する	
		学力向上(進路希望を実現し、質の高い社会生活を送るために)	部活動の推進(強化指定部)、ボランティア活動及び地域貢献活動を推進し、社会性を身につけた生徒を育成する	
			キャリア教育を推進し、予習・復習等の自宅学習を充実させ、社会生活に必要な基礎学力と知識を獲得させる	
			習熟度別・少人数授業の活性化、土曜セミナー及び課外授業の活性化、教育課程の見直し等を通じて、生徒の進路先に応じた学力を身につけさせる	
分掌	重点目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題
教務部	1 基本的な生活習慣の確立	(1) 学年、教科、分掌が連携して出席皆勤を奨励し、遅刻、欠席の減少を図る。 (2) 面談、拡大学年会、授業欠課時間数連絡票を活用して指導を行う。 (3) 不登校対策委員会を開き、中途退学・転学者をなくす方策を講じる。		
	2 組織的な授業改善	(1) 授業参観、授業改善アンケート、教科会議を通して、計画的、組織的な授業力向上を図る。		
	3 確かな学力の育成	(1) 予習、授業、復習の学習サイクルを身に付けさせ、家庭学習の定着を図る。 (2) 国語、数学、英語に関しては、習熟度別の少人数授業のメリットを生かし、生徒の個性や能力を伸ばすために個に応じた指導を充実させる。		
	4 言語活動の充実	(1) 朝読書を通して読解力を向上させ、豊かな想像力と感性を養う。		
	5 教務規定の改定	(1) 教務規定を見直し、1学期の6月までに改定を行い、教育活動の充実を行う。		
生徒指導部	1 挨拶の徹底	(1) 学校生活のあらゆる場面で「いつでも、どこでも、誰とでも、何度でも」という意識を持ち挨拶を励行する。 (2) 教師側の挨拶に対する意識の向上を行い、率先垂範を行う。		
	2 公共の場におけるマナー意識を高める	(1) 「マナーアップ竟成館」を合言葉に登下校時における苦情がゼロになるよう積極的な指導を行う。 (2) 生徒自ら自転車を整列させ駐輪ができるよう呼びかける。		
	3 規範意識を身に付けさせる	(1) 自らが「ルールを守る」という意識を持たせるためにあらゆる機会を通して積極的な指導を行う。 (2) 学年観察指導の学年間の温度差をなくし効果の高い積極的な生徒指導を行う。 (3) 問題行動で指導を受ける生徒を減少させるために、学年と連携し積極的な生徒指導を行う。		
	4 自主性の育成を図る	(1) 鶴翔祭、体育祭、予餞会の行事に生徒会を中心に積極的に参加させる。 (2) すべての活動の場で生徒の激励、称賛の呼びかけを行う。		
	5 部活動の活性化	(1) 指定強化部を中心に活発な活動のできる環境整備を行う。 (2) 部活動加入率87.5%(平成28年度)以上を目標にし、全職員で入部・継続を促す。 (3) 部活動が活性化するために定期的な担当者会議を行い、平成30年度につなげる。		
進路指導部	1 進路意識に結びつく進路企画の充実	(1) 各学年の進路説明会を充実させ、生徒・保護者の必要とする情報を提供する。 (2) 大学訪問や進路講演会を実施し、生徒の進路意識を向上する。 (3) インターンシップ・保育所実習・看護体験等を通して、進路意識の向上を図る。		
	2 学力の向上を図る	(1) 朝課外等三年間を見通した全体計画を構築しし、より効果的な受験指導を実施する。 (2) 模擬試験のデータを分析し、生徒の指導に取り入れる。また、職員研修を行う。 (3) ICTを活用した通信教材により、家庭学習の充実を図る。		
	3 キャリア教育を踏まえて人間力を高める	(1) 各学年に応じた進路企画により、段階的に人間力を高める。 (2) 三年間を見通した小論文指導計画を立て、生徒自身の論理的思考力・文章構成力を高めさせる。 (3) 進路行事を通して、社会人基礎力を身につけ進路選択の幅を広める。。		
	4 学習環境の整備	(1) 進路に関する情報を資料・PCを活用して習得出来るようにする。 (2) 自学自習等に活用しやすいよう進路資料室を整備する。		
1	自らの健康について考え、それを管理する意識と体力の向上に努める。	(1) 健康診断と身体測定に加え、スポーツテストの情報やデータから、健康の維持と体力の向上に役立つ情報を提供できるようにする。 (2) 各学校行事に際し、生徒の健康管理に寄与する組織活動を行う。 (3) 保健関連のポスター掲示や、保健だよりにも健康情報を載せる。		
		(1) 養護教諭・担任・生徒支援教員・スクールカウンセラーが連携し、特別支援を有する生徒への対応や健康相談を行う。		
2	スクールカウンセラーと連携して、生徒の心の問題に			

保 健 部		対応できるようにする。	(2) 職員に対し、配慮を要する生徒の情報を提供し、不測の事態への対応についても確認をする。			
	3	職員・生徒の美化意識を高め、整備された学習環境を保ち、美しい学校づくりに取り組む。	(1) 校内の点検を行い、小規模な破損箇所等の修理管理を行う。 (2) ゴミの分別を行い美化意識を高める。 (3) 無言清掃の計画・実施。			
	4	保健委員会と美化委員会の活動を支援する。	(1) 保健だよりの発行を行う。(月1回) (2) 各清掃区域の生徒必要人数を見直すために、次年度へ向けた調査を行う。 (3) 清掃担当者と清掃用具の点検を行い、用具整備を行う。			
	5	防災・自助・公助意識の育成	(1) 防災訓練(地震・火災)を実施し、不測の事態に備える。 (2) AEDや担架等、緊急時の用具の点検と整備を行う			
	1	挨拶を徹底させる	(1) 挨拶の持つ意義を徹底して伝える。 (2) クラスHRや学年集会において、挨拶についての指導を徹底する。			
第 1 学 年	2	遅刻や欠席をさせない	(1) 遅刻や欠席があった場合、家庭に連絡をし、状況の把握をする。 (2) 課外等の欠席については、放課後の居残り指導等行う。			
	3	各クラスの出席率を98%以上を目標とする	(1) 生徒それぞれに、出席状況の把握をさせる。 (2) 出席率を高めることの意義を、徹底して伝える。			
	4	家庭学習の習慣を図る	(1) 予習・復習を徹底するように、教科担当や部活動顧問と連携を図る。 (2) 考査・模試・検定等、定期的な目標を各自設定させる。			
	5	コミュニケーションの育成を図る	(1) 丁寧語や尊敬語を使用させ、適切な言葉使いを習得させる。 (2) 携帯電話やLINEなどのSNS等に頼らず、人と面と向かって話す力を育成させる。			
	6	豊かな人間性・社会性を養う	(1) HR等を通じて、他者への思いやりや感謝の気持ちを持つ大切さを理解させる。 (2) 部活動や校内外でのボランティア活動に積極的に参加するよう促す。			
	7	周囲への感謝の気持ちや奉仕の心を育み、豊かな人間性・社会性を養う	(1) 学校生活のあらゆる場面で、生徒・職員双方による挨拶を励行する。 (2) 生活、学習環境を清潔に保つために、毎日の清掃活動を徹底させる。 (3) 各種ボランティア活動への積極的な参加を促す。			
第 2 学 年	8	高校生としての基本的な生活習慣、学習習慣を確立させる指導を継続的にを行い、自己管理能力を向上させる。	(1) 遅刻や欠席に対する指導を徹底し、出席皆勤を目指す。 (2) 具体的な進路目標を設定させながら、家庭での予習、復習を習慣づける。			
	9	本校生徒としての自覚を持たせ、行事や部活動等での中心的な存在として主体的に考え行動する姿勢を育成する。	(1) 学年集会など、生徒を中心とした活動を取り入れ、リーダーシップを発揮させる。 (2) 各行事に積極的に参加させ、リーダーの育成を図る。 (3) 身だしなみを自発的に整えさせるために、ホームルーム等で指導する。			
	10	生徒一人一人の自己実現に向けて、コース毎の特長を活かした指導を行い、学習意欲を高める。	(1) 課外や土曜セミナーへ意欲的に参加させ、学力の向上を図る。 (2) 模試の結果等を活用し、具体的な進路目標を立てさせる。 (3) 面談やクラスHRを通し、生徒の抱える問題について早期発見に努める。			
	11	国公立大学合格10名	(1) 進路指導部と連携をし、データに基づいて計画的に面談を行なう。 (2) 各課外の適切な選択を促し、各種検定資格取得を促す。			
第 3 学 年	12	就職内定率100%	(1) 進路指導部と連携し、就職希望者対象の課外を充実させる。 (2) 遅刻・欠席をさせないよう指導する。			
	13	最上級生としての自覚を持たせる	(1) 「五箇条」を率先垂範させる。 (2) 鶴翔祭や体育祭などの学校行事に積極的に参加させ、生徒会を中心にリーダーシップを育成する。 (3) 何事にも率先して行動し、下級生の指導ができるよう指導する。			
	14	豊かな社会性と規範意識の確立	(1) 日頃より機会をとらえて感謝の気持ちを持つ大切さや思いやりに関する話を行う。 (2) 挨拶・身だしなみ・時間厳守など、機会をとらえて指導する。			
	15	研修体制の確立を図り、共通テーマを掲げ、全体での取り組みを実施する。	(1) 各種研修の目的を明確にし、研修の成果を検証する。 (2) 各学期のテーマを設定し、校内研修を計画・実施する。 (3) 現在の社会の動向に対応できる内容の研修会を企画し、意欲、および指導力の向上を図る。			
研 修 部	16	教科指導力、生徒指導力の向上に努める。	(1) 10年経過教員研修を計画通り実施する。 (2) 授業研究会を2学期に行い、授業力向上を図る。 (3) 職員研修の充実を図る。(職員研修会を年間3回実施する。) (4) 教育センター、体育研究所で実施される専門研修への参加、奨励を促す。			
	17	効果的な教育実習を計画し実施する。	(1) 教育の難しさと喜びを体験できる教育実習を計画する。 (2) 将来教職を目指す教育実習生を育てる。			
	18	授業公開週間を通して、授業力の向上を図る。	(1) 授業公開週間において、お互いに授業を参観しあい、授業力アップを目指す。 (2) 地域、保護者、中学校を巻き込んだ授業公開を行う。			
	19	人権・同和教育の推進に努める。	(1) 各学期に1回人権・同和教育の特設授業を行う。 (2) 人権・同和教育に関する職員研修会を実施する。			
	20	学校行事・式典等の円滑な実施	(1) 学校行事・式典等の実施案の起案の時期を早める。 (2) 学校行事・式典等の係分担に関して各分掌、学年間の調整を行う。			
庶 務 部	21	奨学金関係事務の確実な実施	(1) 生徒の家庭状況、経済状況を把握し、奨学金関係の連絡を確実に行う。 (2) 進学希望の生徒・保護者に対して奨学金の最新情報を伝達する。			
	22	P T A活動、同窓会活動の活発化	(1) P T A活動の他校訪問や親睦事業などに役員、評議員以外の保護者の参加数を増やす。 (2) 新しい同窓会役員との連絡を密にし、秋の同窓会総会への参加者を昨年よりも増加させる。			
	23		(1) 内容を対中学生及びその保護者仕様に見直す。			

広 報 部	ホームページの刷新・活用	(2) 常に新しい情報をアップし、学校の様子がわかるように工夫する。				
		(3) リニューアルを検討する。				
	対中学校の本校への理解・認識度をあげる	(1) 進路担当者との関係を強化できるようデータ・資料作成を行う。 (2) 広報誌を年2回発行し在校生を活用した広報活動を実施する。				
	本校アピール力の強化	(1) 他分掌との連携を強め職員間の学科・コースへの理解を強化する。 (2) 校外掲示ブースを活用し地域にアピールする。				
総 合 ビ ジ ネ ス 科	全商検定三種目以上合格者10名	(1) 検定の種目、受験回数、難易度を精査して検定合格率を向上させる。 (2) 浅香外との連携を図る。				
	日商簿記検定2級15名以上合格	(1) 新試験範囲へ対応できるように教員が研修に参加する。 (2) 専門学校等の講習会に生徒・教員を参加させる。 (3) 授業の予習を習慣化させる。				
	授業内容の充実	(1) ビデオ・パワーポイントなどの視覚教材を活用する。 (2) 教科担当者間の連携（共通教材、授業の震度、目標視覚等）を行う。				
	就職力・進学力の向上	(1) 大学進学を意識させる。 (2) 目先の進路先にとらわれず、自己の進路を長期的な視野に立った学校選択を指導する。				
	中学校等へのPR活動の充実	(1) 出前授業に積極的に出かける。 (2) チャレンジショップを充実させる。				